

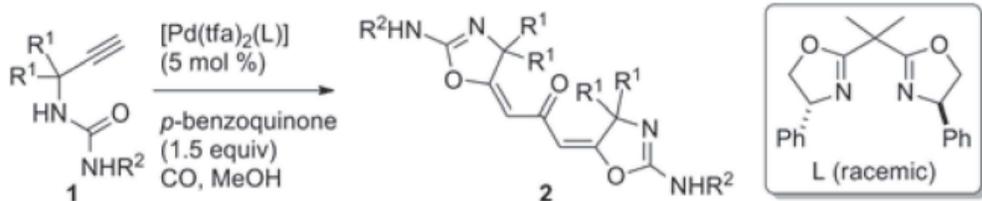
# 30amA-630

Box-Pd (II) 触媒によるプロパルギルウレアの環化 - カルボニル化 - 環化 - カップリング反応

○川口 浩次郎<sup>1</sup>, 川村 雅<sup>1</sup>, 沈 融<sup>1</sup>, 日下部 太一<sup>1</sup>, 高山 博之<sup>2</sup>, 加藤 恵介<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>東邦大薬, <sup>2</sup>日本薬大)

【目的】先に我々はプロパルギルアセテートやアミド、ジケトン、アニリンおよび2-アルキニルフェノールの環化-カルボニル化-環化カップリング(CCC-Coupling) 反応を報告している。<sup>1-3</sup> 今回、CCCcoupling 反応の適応拡大を目的に、プロパルギルウレア **1** について検討した。

【結果】**1** を 5 mol % の [Pd(tfa)<sub>2</sub>(L)] 錯体を触媒として、1.5 当量のパラベンゾキノン存在下、メタノール中、一酸化炭素雰囲気下、室温で 24h 攪拌したところ、目的の反応が進行し、二つの 2-アミノ-2-オキサゾリン環を有するケトン **2** が 58 ~ 89 % の収率で得られることを見出した。<sup>4</sup>



[1] K. Kato *et al.* *Angew. Chem. Int. Ed.* **2011**, *50*, 3912.

[2] K. Kato *et al.* *Org. Biomol. Chem.* **2012**, *10*, 3192.

[3] K. Kato *et al.* *Synthesis*, **2012**, *44*, 1825.

[4] K. Kato *et al.* *Molecules* **2012**, *17*, 9220.